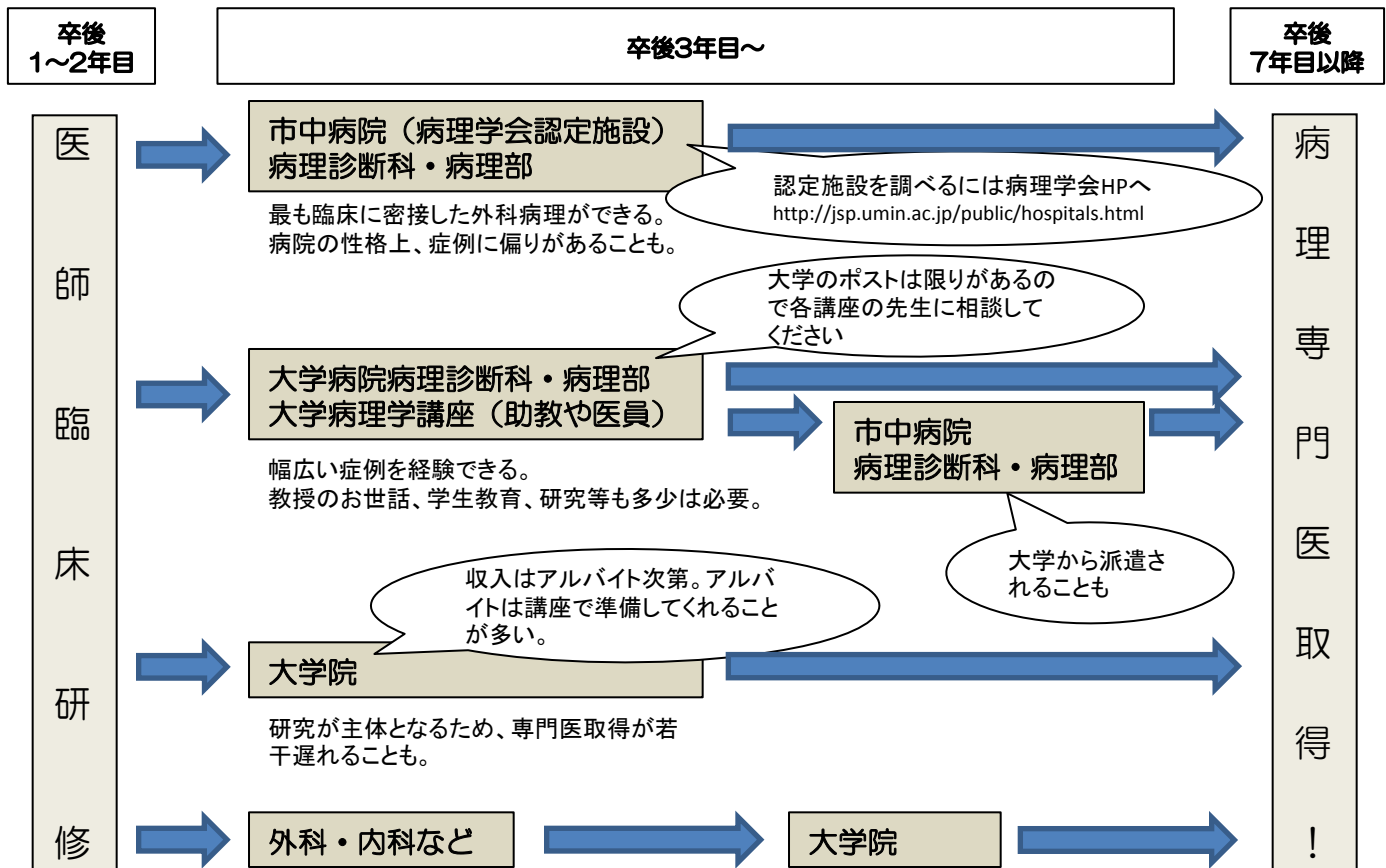


病理医もいいなあ・・・と思った人だけ読んでください

病理医になるには、**病理専門医**を目指して研修してください。主な受験資格は以下の通りです。
卒後7年目から受験できます！

1. 2年の初期研修＋4年間の大学・病理学会認定施設での病理専門医教育
2. 3年以上日本病理学会会員であること（入会は簡単です）
3. 死体解剖資格を取得していること（20例で申請できますが、認定までにしばしば半年以上時間がかかるので早めに準備を）
4. 人体病理学に関する論文または学会報告3編以上（指導医がテーマを与えてくれるはず）
5. 病理組織学的診断5,000例以上、術中迅速診断40例以上、細胞診経験症例数申告書1,000件以上（普通にこなせば問題ない）
6. 主執刀医として病理解剖を40例以上（大学病院でも多くは30数例／年なので、特に複数の受験予定者がいる場合は症例数の確保が問題になる）
7. 病理組織診断・細胞診・病理解剖に関する指定された講習会を受講していること（案内が出ます）



進路に関する先輩たちからの声

- ・初期研修2年目の冬まで外科志望でしたが、標準整理や固定法を学ぶために1カ月選択した病理で、医療における病理の大切さや迅速診断の醍醐味を覚え、さらに後期研修医でも1年間病理を選択したことですっかり病理の面白さに取りつかれてしまいました（研修医⇒市中病院病理部）。
- ・私が医学部を卒業した頃は現在のような臨床研修制度がなく、勧誘されて卒後直ちに大学の病理学教室の門を叩きました。学生時代に研究室配属でお世話になったことが縁です。診断病理医としての自立を目指しつつ、研究に携わって学位も取得したいという希望を叶えるためには、大学院進学がベストの環境のように思います（40代、専門医）。
- ・学生の頃に病理医を目指そうと志し、大学の病理学教室の先生に相談したところ大学病院病理部を薦められましたが、最終的には大学院になりました。個人的にはまず市中病院や大学の病理部で外科病理の基本を学んでからの方が良いかなと思います。実験もそれなりに楽しく、外科病理へのfeedbackもなくなりますが・・・（20代、研修医⇒大学院）。
- ・診断や実験に携わり、病理学はやはり奥深くおもしろく、一生の仕事にしようと思いましたが不安もあります。外病院のバイトで生活が成り立っていて、病理医という職業でいつ食べていけるようになるのだろうか？という現実的な不安があります。心配する前に実力をつけなければいけないのモッタイです（20代、研修医⇒大学院）。
- ・好きな音楽を聴きながら診断する時間が幸せです。大学院に行くときは実験メインの教室か、診断メインの教室か確かめておいたほうがいいでしょう（50代、外科系⇒大学院⇒専門医）。
- ・研修場所は慎重に選びましょう。病院によっては忙しすぎて後輩を指導する余裕がない場所や、後輩の指導、生活には全く興味がない先生もいます（30代、研修医⇒大学病院病理部⇒一般病院⇒大学院、専門医）。
- ・臨床の専門医取得⇒大学院（病理以外）で学位取得⇒臨床⇒病理の特殊パターン。病理専門医取得は遅くなるが臨床経験は無駄ではない臨床ネーベンで金銭的に困らず。周りを見て思うのは、病理をいつ始めようが結局はその人の考え方とやる気次第で人生決まります。日々勉強で大変ですが、この時期にこの病理学教室にきてよかったと思います。（30代、大学病院病理部勤務）